

初期臨床研修医を対象とした 診断エラーに関するワークショップ

國友耕太郎[†] 吉村文孝 久保崎順子 辻隆宏

第76回国立病院総合医学会
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 3 (166-170) 2024

要旨

診断エラーは、重要な医療安全問題の一つであり、その要因として診断プロセスにおいてさまざまな認知バイアスがかかっていることが指摘されている。救急外来は、初期臨床研修の場として重要であるが、診断エラーの頻度が高い場所でもある。日本内科学会専門医部会では、2017年に診断プロセス向上ワーキンググループが発足し、診断プロセスにかかわる要因の解析やその回避のための方法を提案している。

国立病院機構熊本医療センターでは、2019年に日本病院総合診療医学会の診断エラーワーキンググループ（現 良質な診断ワーキンググループ）のメンバーを迎えて、初期臨床研修医を対象に診断エラーに関するワークショップを行った。具体的には、診断エラーに関するレクチャーを聞いた後に、初期臨床研修医が救急外来で遭遇した記憶に残っている診断エラーの症例を持ち寄って、どのような要因や認知バイアスがかかっていたのかを話し合う形式である。2020年以降も総合診療科が主体となって同様のワークショップを継続して開催しており、示唆に富む症例に関しては、初期臨床研修医が筆頭著者となり、症例報告や論文作成を行っている。

診断エラーに関するワークショップは、日常診療における診断プロセスを共有できるだけでなく、日々の診療を見直す貴重な機会となる。また、診断プロセスに問題を生じさせる要因に関する知識や診断エラーの回避方法を身につける教育プログラムとして有用と考える。

キーワード 診断エラー、救急外来、初期臨床研修医

はじめに

診断エラーの要因として診断プロセスにおいてさまざまな認知バイアスがかかっていることが指摘されている。救急外来は、初期臨床研修医の臨床研修の場として重要である。しかしながら、救急外来

は診断エラーに遭遇する頻度が高く、訴訟も多い場所である¹⁾。海外では、2008年に診断エラー会議（Diagnostic Error in Medicine）が立ち上がり、我が国においても診断エラーの啓発活動が始まった。日本内科学会専門医部会では、2017年に「診断プロセス向上ワーキンググループ」が発足し、診断プロ

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 [†]医師
著者連絡先：國友耕太郎 国立病院機構熊本医療センター 総合診療科
〒860-0008 熊本県熊本市中央区二の丸1-5
e-mail：m05035kk@yahoo.co.jp
(2023年2月21日受付 2023年6月9日受理)

Workshop on Diagnostic Errors for Junior Residents
Kotaro Kunitomo, Fumitaka Yoshimura, Jyunko Kubosaki and Takahiro Tsuji
NHO Kumamoto Medical Center, 1-5, Ninomaru, Kumamoto, Kumamoto
(Received Feb. 21, 2023, Accepted Jun. 9, 2023)

Key Words : Diagnostic errors, Emergency room, junior residents